



コンスタンティン・ブランクーシ 『接吻の門』 1938年 石 H5.6m
ルーマニア ティルグ・ジウ公園
日本建築美術工芸協会会員 村井 修 撮影

aaca
25周年

2014年 3月 会報67号

一般社団法人
日本建築美術工芸協会

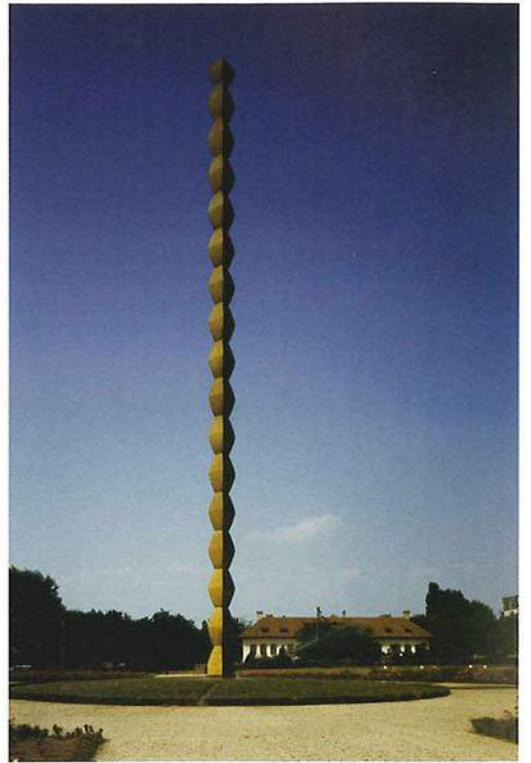
写真家 村井修『世界の広場と彫刻』作品集

なお表紙の写真は、当協会25周年にさいし村井修先生みずから選ばれた作品を毎号掲載しています。

後年、研ぎすまされた抽象彫刻で現代を代表する作家が1937、8年に第一次世界大戦の戦没者記念として故郷の公園に5点のアンサンブルの作品を創った。その依頼が市の婦人連盟という意識の高い社会背景を持つ。個々の作品はブランクーシがテーマにしていたエンドレスコロン、接吻、円卓が二つの公園を結ぶ街の中心を通るエロイロール通りの1.5kmの直線上に配され、途中にビザンチンの教会までも取り込んでいる。正に都市計画的な構成によるパブリックアートの典型を見せている。



コンスタンティン・ブランクーシ
「沈黙の円卓」1937-38年 石 H79cm
ルーマニア ティルグ・ジウ公園



コンスタンティン・ブランクーシ
「無限柱」1937年 鋳鉄 H31.7m
ルーマニア ティルグ・ジウ公園

CONTENTS

『世界の広場と彫刻』	村井 修	2
設立25周年 一般社団法人移行記念会・協会賞表彰式		3
平成25年度 AAC A賞・芦原義信賞		4~6
シンポジウム委員会レポート aaca25周年景観シンポジウム「明治神宮と原宿」	岡 房信	7~8
寄稿 景観シンポジウムに参加して	小高みどり	9
25周年記念作品展「遊びの色と形」	平山健雄	10~15
寄稿 「FUWWAT2050 建築構想」 「Wind Variations 三」 「はざまから生まれるかたち」	葛西秀樹 梅田和弥 木村吉邦	16 17
時代の華一輪 「制作と出会い」 「素材・現代の様相」一次への制作一	井上勝江 大島由美子	18 19
文化事業委員会レポート 「aaca千葉・茨城地区建物視察会 参加記」	遊佐謙太郎	20
第182回 aacaフォーラム 「歌舞伎を語る」	澤村田之助	21
第16回瓦屋根設計コンクール賞		22
25年度臨時総会 新入会員・会員の移動 新規会員紹介のお願い 東日本大震災「芸術文化復興預金」募金のお願い		24

設立25周年 一般社団法人移行記念会・協会賞表彰式

開催日：平成25年12月4日（水）午後4時～7時30分

場 所：建築会館大ホール（東京都港区芝5-26-20）

来 賓：文化庁文化部芸術文化課 芸術文化調査官 眞住貴子様

// 専門職 田口実世様

芦原義信デジタルフォーラム 芦原初子様

(公益社団)日本建築家協会会長 芦原太郎様

同 関東甲信越支部支部長 上浪 寛様

(一般社団)日本建築士事務所協会連合会 三栖邦博様

(一般社団)東京建築士事務所協会連合会 加藤 昇様

出席者 個人会員 47名、法人会員 30名

受賞者・応募者 23名 合計100名

次 第 会長挨拶 岡本 賢会長

来賓祝辞 眞住貴子芸術文化調査官

表彰式 芦原太郎理事(選考委員長)



岡本 賢会長 挨拶

皆様 この設立記念会にご多忙の中大勢お集まり頂き誠に有難うございます。

又、文化庁より眞住様ご出席賜り有難うございます。

そして、ACA賞・芦原義信賞を受賞されました皆様お慶び申し上げます。誠にありがとうございます。

当協会は、故芦原義信先生が設立され今年で25周年を迎え、又、11月1日より一般社団法人に移行することが認可されまして、新たな出発を迎える年となりました。

この協会は、建築と美術に関する総合空間芸術の創造を目指す多くの人が集まり協会をかたち作っております。

その目的とするところは、優れた都市景観を造る事、文化的生活環境を造る事を旨とし、日々活動を続けて参っております。今年度の主な活動としましては、7月に新歌舞伎座をテーマに致しまして、銀座周辺の都市景観がどのように変化し、これからどうなってゆくか、というシンポジウムを開催し多数お集まり頂き成功裡に終わりました。

次に来年1月には、話題の場所であり「明治神宮と原宿」が今まで都市景観がどうかたち造られ、これからオリンピックを迎える中で、どんな将来・未来になるか。そのようなことをテーマにシンポジウムを開催する予定でございます。どうぞ皆様方大勢ご参加頂くよう、お願い申し上げます。

このように常に最先端の最新情報を発信して、多くの人々に皆様を取り巻く環境の変化、又その環境の持つ文化について、新しい視点を持って頂く一助になれば、と考えております。そして新法人移行によりましてさらに公益活動を主体にした事業を展開し、芸術文化活動を増やして実績を積み重ねて、当協会の存在価値を社会のなかで高めてゆきたいと考えております。

そのためには会員増強がきわめて大事なテーマであり、他の協会も苦戦している中で、当協会も会員増強を最大の課題としております。ご出席の皆様にはご関係の方たちに活動理念をお伝え頂き会員としてご参加頂くよう、お声掛けをぜひ宜しくお願い申し上げます。と同時に本日受賞される皆様には、ぜひご入会をお願いしたいと思います。

この協会の発展のためにぜひ皆様方のご協力をお願いいたしまして、簡単ではございますが私の挨拶とさせていただきます。 どうも有難うございました。

文化庁 眞住貴子芸術文化調査官 ご挨拶

一般社団法人日本建築美術工芸協会 設立25周年及び一般社団法人移行記念会、協会賞表彰式の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、このたび栄えある各賞を受賞されます皆様方に心からお祝い申し上げます。様々な分野が協力し、融合された文化的環境と美しい芸術的環境を審査対象とする本賞については、回を重ねるごとに評価が高まっているところであり、受賞者の皆様におかれましては、このたびの栄誉を契機に今後ますます充実した活動にまい進されご活躍されることをお祈りしております。

日本建築美術工芸協会は、本賞の授与を始め、先ほどご説明のありました、講演会や研修会の開催等の公益活動を通じて、建築美術の発展に大きく貢献されてきました。役員を始め会員の皆様のご尽力によるものであり、心から敬意を表します。本年、法人設立25周年の節目を迎えられ、また一般社団法人に移行された事を契機として、この分野のさらなる発展に引き続き寄与して頂きます様お願い申し上げます。

文化芸術は人が人らしく生きるために不可欠なものです。特に人々が快適に暮らす場や環境、空間こうした物を作りあげるには、様々な分野の人材が協力しあうことが大切になってくると存じます。貴協会が建築の分野のみならず美術の分野、工芸の分野にわたって幅広く交流をはかっていることは、きわめて意義深いことであり、今後益々の重要性が増してゆく事が考えられます。

皆様、ご承知のとおり先般2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まりました。その2020年に向けまして、文化庁においても日本を文化芸術により世界中の人達を引きつける国へと発展させるべく、下村文部科学大臣の下 文化芸術実行プランの策定や施策の実地に努めているところです。本日ご参集の皆様におかれましては、今後共日本の文化芸術の発展・振興のため引き続きご尽力賜りますよう心からお願い申し上げます。

結びに本日受賞されます皆様方のさらなるご活躍と、一般社団法人日本建築美術工芸協会の、なお一層のご発展を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。 本日は誠にありがとうございます。

審査総評

選考委員長 芦原太郎

日本建築美術工芸協会 第23回AACAA賞、第12回芦原義信賞の両賞は、景観・町並み・ランドスケープから建築空間やインテリアまで、スケールを問わず建築・美術・工芸の力で人々に感動を与える美意識に支えられた、環境や空間を創り出した作品に与えられるものである。今年の応募作品は相変わらず建築が大多数を占めていたが、その内容はバリエーション豊かな力作が見られた。審査はAACAA賞28点、芦原義信賞17点の応募作品を、それぞれ候補12点・候補5点に絞り、現地審査対象とした。現地審査は2人以上の選考委員が現地へ赴き、設計者や管理者から説明を受け、最終審査の際現地審査の報告を担当委員が行い、全員で議論を闘わせ各受賞作品を決定した。結果はAACAA賞1点、優秀賞2点、特別賞1点、奨励賞2点、芦原義信賞1点、優秀賞1点、奨励賞1点となった。

今年のAACAA賞受賞作品を見ると、ジェームス邸、伊勢神宮、東京駅など既に文化的価値を有する建物の保存・修復・継承にかかわっている。それぞれの時代背景のなかで真摯に作られ、永く生き続けてきたものには、人々の心を打つ力が宿っているわけで、こうしたものを大切に継承して新しい価値を創り出していくことは大切である。

AKASAKA-K-TOWER、翼竜のたまご、新潟市江南区文化会館は個々の状況は違うなかで、オーナー、建築家、あるいはアーティストの強い意志により、新しい価値を創り出すことに成功している。芦原義信賞の日本圧着端子製造株式会社、秘密のクリ園はまさに新人賞に相応しい斬新な発想で、従来の設計手法に捕らわれることなく、新しいユニークな建築を生み出している。中央区立中央小学校・中央幼稚園はオーソドックスな手堅い設計手法ではあるが、コンパクトに凝縮された斬新な学校となっている。

ここに見られるように建築、美術、工芸のコラボレーションにより、様々な場面で文化的価値を高めていくことは可能であるわけであるが、なかなか活躍の場が広がってこないことが問題である。近年はとかく経済性が優先され文化的価値を持つ建築づくりが難しくなっている傾向にあり、バブル時代には行き過ぎもあったとは思いますが、アートに対する予算もなかなか確保出来ない状況である。

次世代に向けて私たちの共有財産である公共空間の文化的価値を高めていくことは私達の義務であり、日本建築美術工芸協会はAACAA賞を通してこうした運動の推進を目指している。

第23回AACAA賞 受賞作品

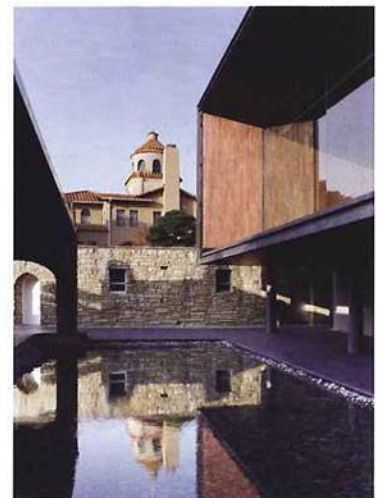
AACAA賞

「ジェームス邸と周辺の景観のサスティナブルな存続」

作者：中村圭祐（榊竹中工務店 大阪本店設計部）
所在地：兵庫県神戸市垂水区塩屋町6-28-1



(撮影 榊ナカサアンドパートナーズ 仲佐 猛)



AACA賞・優秀賞

「式年遷宮記念 せんぐう館」

作 者：(株)栗生総合計画事務所（建築）
所在地：三重県伊勢市豊川町前野126-1



(撮影 (株)ナカサアンドパートナーズ)

「AKASAKA-K-TOWER」

作 者：KAJIMA DESIGN
所在地：東京都港区元赤坂1-2-7

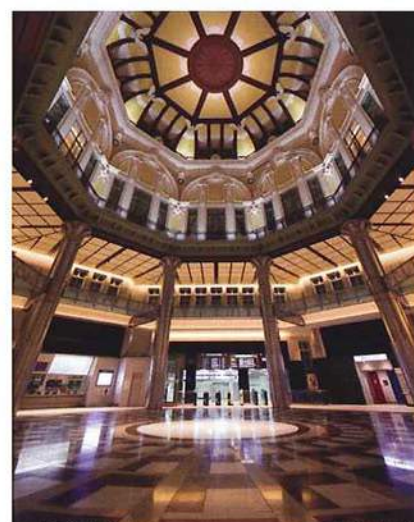


(撮影 鹿島建設(株))

AACA賞・特別賞

「東京駅丸の内駅舎 保存・復原」

作 者：東日本旅客鉄道株式会社、(株)ジェイアール東日本建築設計事務所
所在地：東京都千代田区丸の内

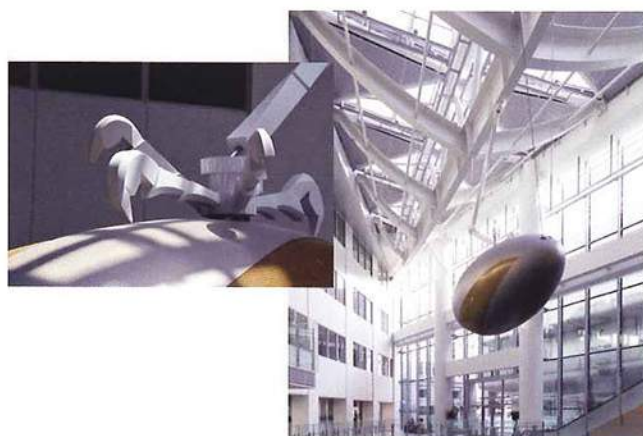


(撮影 (株)エスエス東京)

AACA賞・奨励賞

「翼竜のたまご」

作 者：坂上直哉
所在地：愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2



(撮影 末正真礼生)

「新潟市江南区文化会館」

作 者：新居千秋
所在地：新潟県新潟市江南区茅野山3-1-14



(撮影 小川泰祐)

第12回芦原義信賞 受賞作品

芦原義信賞

「日本圧着端子製造株式会社」

作者： Atelier KISHISHITA+Man*go design
岸下真理+岸下和代+都倉泰信+稲垣 誠
所在地： 大阪府大阪市中央区道修町3-4-7



(撮影 絹巻豊写真事務所 絹巻 豊)

芦原義信賞 優秀賞

「中央区立中央小学校 中央幼稚園」

作者： (株)久米設計 小牧実豊、藤森慶弘
所在地： 東京都中央区湊1-4-1



(撮影 川澄・小林研二写真事務所)

芦原義信賞 奨励賞

「秘密のクリ園」

作者： 高橋彰子・高橋博朗, enne
所在地： 福岡県北九州市長野緑地



「景観シンポジウム『明治神宮と原宿』が開催されました」



岡房信

常務理事

日本建築美術工芸協会会員

シンポジウム委員会担当

平成 25 年度シンポジウム事業の第 2 弾にあたる頭記のシンポジウムは、去る 1 月 15 日水曜日に早稲田大学国際会議場井深大ホールで開催されました。当日はあいにく冷え込みの厳しい冬日でしたが、お陰様で参加者は 192 名にのぼり、会場を大隈ガーデンホールに移した交流会にも 93 名の方々に参加頂きました。

当日のシンポジウムの詳細は機関誌別冊に譲ることとして、本稿では登壇者のプロフィールと企画・運営面での工夫に焦点をあてて報告させて頂く事とします。

まず第一部の講演では、今泉宜子様に登壇頂きました。今泉様は明治神宮国際神道文化研究所主任研究員で、2008 年には明治神宮復興 50 年を記念した「明治神宮一戦後復興の軌跡」を編纂され、また昨年『明治神宮一「伝統」を創った大プロジェクト』を上梓されています。「明治神宮一戦後復興の軌跡」では、第二次世界大戦末期の東京空襲で焼失した社殿の戦後復興の軌跡が、明治神宮所蔵資料の調査と復興造営に関わった方々および渋谷の歴史に詳しい方々への広範な聞き取り調査に基づいて記されています。また『明治神宮一「伝統」を創った大プロジェクト』では、「近代日本を象徴する明治天皇の神社」を「伝統の上に近代知も取り入れた全く新たな神社」とするために、如何に広い分野からの人材が集結し、如何に多くの困難を克服して完成に至ったかが、膨大な資料による裏付けのもとに活写されています。当日の今泉様は「明治神宮一「永遠の杜」が伝える 100 年のレガシー」という演題で、明治神宮や表参道の創建当時の写真も使いながら、私たちが普段知っているようで知らない明治神宮の物語を語って下さいました。

続いて松井誠一様に登壇頂きました。松井様は表参道で松井ビルを経営するかたわら、2006 年から原宿表参道櫺会の理事長を務めて居られます。櫺会は、1973 年に設立された「原宿シャンゼリゼ会」が 1999 年に名称変更したのですが、創立当時から「Keep Clean Keep Green」の標語のもと、環境重視の街づくりに取り組んでこられました。1981 年からは街のシンボルである「けやき」の診断を開始、1991-97 年には来街者が安全に街を歩けるよう歩道敷石、街路灯を変更する街路修景事業を実施、2000 年には街路を自主的に清掃する櫺会スィーパーチーム、クリーンバスターズ発足させるなど、常に時代の要請を先取りした活動を積極的に展開してこられました。現在は、インバウンド観光客の誘致にも積極的に取り

組んでおられるとの事です。その櫺会は昨年創立 40 周年を迎え、前出の今泉様や次にご紹介する陣内様も招聘して、原宿表参道の「将来像」を考えるプロジェクトを立ち上げ、その検討成果を冊子に取りまとめて刊行しておられます。当日の松井様にはそのプロジェクトの成果を踏まえ「水と緑のネットワーク・新しい世代の都市を原宿・表参道から」という演題で、櫺会の皆さんが原宿・表参道に描く夢を語って頂きました。

第一部終了後、10 分間の休憩を挟んで始められた第二部のパネルディスカッションでは、今泉様、松井様に加えて、陣内秀信様、面出薫様、古谷誠章様が登壇され、計 5 名の方々からお話を伺いました。

陣内秀信様は建築史家であり、法政大学デザイン工学部教授を務めておられます。ヴェネツィアを始めとする地中海都市の研究・調査の傍ら、東京を「水の都」とする論陣を張るなど、都市景観をテーマに幅広く活躍しておられます。NHK の人気番組「ブラ・タモリ」にも出演しておられるので、皆様にも馴染み深い方かと思えます。当日の陣内様にはファシリテーターをお願いしましたが、東京スカイツリーをメイン・テーマとして 2011 年に開催した景観シンポジウムに続いて 2 回目のご登壇となりました。

面出薫様は照明デザインのプロデューサー、プランナーであり、武蔵野美術大学客員教授を務めておられます。国内はもとより国外のプロジェクトにも数多く参画されている景観照明のプロフェッショナルですが、市民参加の照明文化研究会・照明探偵団団長としても幅広い活動を展開しておられます。今泉様が奉職される明治神宮の御社殿復興 50 周年記念イベント「アカリウム」では照明演出を担当された経験もお持ちです。当日は「日本人の明かりの美学」や「闇の美しさ」をキーワードに興味深いお話を伺う事が出来ました。

古谷誠章様は建築家であり、早稲田大学創造理工学部教授を務めておられます。建築家として日本芸術院賞、日本建築学会賞作品賞、吉岡賞、JIA 新人賞など多数の受賞経歴をお持ちですが、青春の日々を神宮外苑・原宿界隈で過ごされた経歴もお持ちです。当日は「東京っこ」のお立場からパネリストとして登壇頂きましたが、「原宿の魅力は立派な表参道と迷路のような裏道が組み合わせられた魅力」、「連歌の上の句と下の句のように異質なものが連続しながら一体となるところが都市景観の魅力」等、示唆に富んだお話を伺う事が出来ました。

今回の登壇者はいずれも「明治神宮と原宿」に深い関わりをお持ちの方々であり、一味違ったお話を伺えたと思います。また、登壇者の皆さまにはシンポジウム後の交流会にも最後までお残り頂きましたので、参加者の皆様も登壇者との交流・懇親を十分に深められた事と思います。皆さまに改めて御礼申し上げます。

ところで、今回のシンポジウムでは、岡本会長の「シ

ンポジウムは毎年2回開催」という方針を受けて、以下のような企画・運営上の試みにも挑戦しました。

- ① 会場選定
- ② テーマ設定
- ③ 事務局とのコラボレーションの強化

まず会場選定ですが、年2回開催を前提にすると、法人会員企業の伝手を頼って企業が保有するスペースを借りるという従来手法だけでは、希望時期での会場確保が難しくなることが予想されます。そこで、選択肢を増やすために、地方公共団体や大学等が保有するスペースの利用を検討する事にしました。その結果、今回はaaca会員であり建築家の古谷誠章様が教授を務めて居られる早稲田大学の国際会議場を借用する事としました。大学の施設は在籍者だけでなくOBにも利用の門戸を開いているところが多いですが、今回は現職の教職員が参加するイベントという事で手続きも極めて順調に進めることが出来ました。結果として、参加者の皆さんにも快適なスペースでシンポジウムを聴講頂くことができ、またスタッフも使いやすい設備が整った環境でスムーズにシンポジウムを運営する事が出来ました。さらに、交流会で利用した大隈ガーデンホールとの連絡調整にあたっては、早稲田大学校友会の方にもお世話になりました。この場を借りて、早稲田大学教務課、国際会議場事務室ならびに校友会の皆さんに改めて深く御礼を申し上げます。

次にテーマ設定ですが、これも年2回開催を前提にすると、定番となっている「最近の話題プロジェクトに焦点をあてる」という手法だけでは、息切れしてしまう事が予想されます。また、協会の現在の体力からすると、シンポジウムのテーマを東京圏以外に求めて主催する事も現実的とは考えられません。そこで、かねてお付き合いのある陣内先生に「①建築・美術・工芸の全分野に関わり、一分野に偏らない②東京圏内でシリーズ的に展開できる可能性を持つ」の二点を条件に、テーマ設定をご相談しました。その結果生まれたのが今回の「明治神宮と原宿」であり、「東京の景観遺産を再評価する」という視点からのシリーズ化も意識しています。このテーマを決めた時点では2020年のオリンピック・パラリンピック開催地は未定でしたので、オリンピック・パラリンピック関連の新規プロジェクトを想定してテーマ選定をしたわけではありません。「東京の景観遺産を再評価する」シリーズを「昨今の話題プロジェクトに焦点をあてる」シリーズを補うものに育てていきたいと考えているところです。

最後にあげた事務局とのコラボレーションの強化は、岡本会長が掲げておられる目標「aacaは、毎月、何かのイベントを開催している」を実現する上で極めて重要と言えます。従来から各種イベントの金銭出納管理は事務局に協力頂いていますが、今回は事務局に置かれた共用パソコンに参加申込者の管理等に必要な

ファイルを保存し、データの追加、更新、出力も事務局に協力頂きました。従来、これらの作業の大半は、一部の固定化された会員のボランティアに依存していたところですが、そもそも不健全な取り組み方であったと言えます。加えて、イベントの頻度が増すとすると、到底長く続けられる仕組みとは言えません。今回、事務局の共用パソコンを活用する事で事務局とのコラボレーションが格段に進んだ事は間違いありません。シンポジウム以外の事業でも同様の取り組みは有効だと思います。

以上、今回のシンポジウムで工夫した点を列記しましたが、次に記すように、改めて浮き彫りにされた課題もあります。

- ① 事務作業の負担
- ② 参加費の適切な設定

最初に事務作業の件ですが、共用パソコンは導入されたものの、告知や集客活動は従来通り紙情報によるコミュニケーションを基本に組み立てました。この結果、印刷費や搬送費用が発生する以外に、資料の封筒詰め等、何人分かの人手を要する作業が発生します。この作業は片手間では済まない量であり、イベントの頻度が高まると運営上の致命的なネックになる恐れがあります。紙情報をいきなり全て電子データに置き換える事は非現実的でしょうが、電子データによるコミュニケーションへの移行は早期に開始すべきと思われます。また、電子データが基本媒体であれば、分散した場所に居る担当者が無料のアプリケーションを使って協同作業をする可能性も生まれて来る筈です。現在、総務委員会でウェブサイトの機能更新を検討中とのことですが、シンポジウムのような集客イベントを恒常的に開催するのであれば、個人情報保護ルールに則ったメイリング・リストも併せて整備して頂き、協会と会員間のコミュニケーションにかかる作業負担を大幅に削減する必要があります。

次に参加費の設定についてですが、一般社団法人として非会員の方にも多く参加して貰いたいとの思いから、今回は会員と非会員の間に差を設けませんでした。しかし、イベントを会員勧誘への契機にしようとするなら、会員・非会員の参加費に差を設けて「会員メリット」を訴える手法も考えられます。ただし、この手法が期待通りの効果を生むか、逆効果となるか、見極めは極めて困難です。また、一般的には参加費無料のイベントも少なからず存在します。消費税増税も含め社会経済環境も変化しつつあり、協会の他のイベントとの関係も考慮しながら、今後の参加費を設定して行きたいと思えます。

以上の記してきたようにシンポジウムのような集客イベントを繰り返し実施する事は容易ではありませんが、お陰様で今回は会計報告まで無事終了しました。最後に、関係者の皆さまに重ねて御礼申し上げます。

景観シンポジウム 「明治神宮と原宿」



小高みどり

染色家

新匠工芸会会員

aaca の会員の方に誘われて参加した景観シンポジウムは非常に興味深いものでした。

私は、草花をモチーフに図案を創り染めておりますが、自然の植物のエネルギーや美しさにはなかなか超えられないと感じることがよくあります。

建築空間にといっても注文住宅の展示場でしたが、5回程染織作品をつるしたり掛けたりして展示した事があります。吹き抜けの階段に天井から帯を下げたりと、違う目的で制作したものを展示方法によって別の空間作品になるのです。

今回の景観シンポジウム「明治神宮と原宿」には、空間の創造や自然の強い力を表現する感性を広く培えればと刺激を求めての参加でした。

明治神宮という東京の中でも広大な緑の敷地の宗教色ある神社である事、そして今や原宿周辺の現代の流行のショップが立ち並ぶ地域である事、外苑の野球球技場を始めとするスポーツ関連の会場が多々ある事、それぞれが現代に相和している地域も他ではあまり例を見ないものだと思います。

明治神宮国際神道文化研究所の今泉宜子氏のお話の中で、御料地だった明治神宮の自然をどのように作られたか、また現在も落ち葉は森に返すという緑の杜を守っていく事に明治神宮が明治天皇と昭憲皇太后をお祀りしている事も合わせてさらに大きく、神を敬う気持ちと自然が深くつながっているのを感じました。

明治神宮は、伊勢神宮や日光東照宮のような杉や檜が少なく、東京という公害が出始めた地域には照葉樹でなければ育たない、また 100 年後に自然の状態になっていくにはどうしたらいいか考えられたのだそうです。

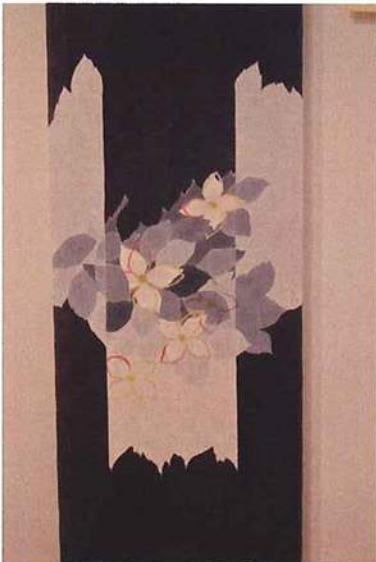
100 年先を見越して、叡智と研究によって今の明治神宮の杜が守られてきたのだという事に、杜を作り上げた人々の深い尊念を感じました。

100 年あまりの後、今の時代に活気とエネルギーを加えている人々の力を原宿表参道榊会理事長の松井誠一氏のお話によって再確認し、100 年後も 200 年後も続く人々の街への願いが第 2 部のパネルディスカッションの皆様によって広がっていきました。

パネルディスカッションを聞きながら、周辺地域の活気をどうしたら維持できるか面出薫氏はじめたくさんの方々遊び心ある取り組みに、ワクワクしながらエールをおくっている自分がいました。



月下香（着物・糸目友禅・絹地）



花かげ（染め帯・糸目友禅・絹地）



月下一輪（染額・糸目友禅・絹地）



青～蒼（板締め・絹オーガンジー）



建築・設計と美術・工芸がより密接に関係性を持つる展覧会の始まりとして、「遊びの色と形」をテーマとして参加を皆様にお願ひしました。「遊び」と言う言葉がややもすれば「ゆるい」感じとして受け取られるとの意見もありましたが、会員の皆様に肩の力を抜いて気楽に出品していただけたらとの展覧会部会の考えがありました。その結果、建築設計の関係 12 名（組）、一般参加が 15 名、美術工芸家含め 46 名の出品になりました。

平面作品としては、油彩、アクリル、和紙、墨、タイル、染織、布、テンペラ、ガラス、金属、皮革、木、土等、立体作品では、カラーアクリル、陶器、チタン、ステンレス、ポリ塩化ビニル、鉄、木、石等、多様な素材。単純に「使い道」の有る無しで、工芸と美術を分ける無意味さも実感できた出展でした。建築設計関係では、施工例のパネルやマケットの他、環境芸術を思わせる「風」を素材とした作品や、光の角度によって見え方が極端に変化する小作品、やはり視線の方向によって色彩が数色に見え隠れする立体、又、設計事務所内で行われた「文化祭」に出品した美的に構成されたユニークな家々など。このような実験的な作品が若手の方々によって生まれてゆくその可能性を、建築設計に携わる方達の中に見ることが出来、魅力ある展覧会になったと思われます。

今回の作品展では会場で「ご意見・感想」としてアンケートをお願いしました。その内のいくつかを紹介します。

- 展覧会の名前がすてきで、案内状のデザインがとても良いです。“色が私を誘惑して”グッドです。
- 素材の違う様々な分野の作品があって楽しいし、遊び心をくすぐられました。
- 建築と美術工芸の場ですので、その意味でもっと強いつながりの感じ取れる（相互に）場として考えて頂けるとうれしいです。例えば、あるテーマで設計とアーティストの共同で何かを作る。このスペースは、その様な意味でも大変適した所だと思います。

のべ約 400 名の来場者がありましたが、今までの AACA の展覧会とはひと味違うと感想を持たれた方が多いように感じられました。又、一般参加で初めての出品の方々が新鮮な風を吹き込んでくれたことも成果の一つで、展覧会が新会員の増強にもつながればと期待しています。

26 年度からの秋の展覧会の展望として、アンケートにもありましたように、建築設計と美術工芸がいかにコラボレーションしてゆくかと云うことと思われます。展覧会で同時に立場が違うことをふまえた上での展示だけではなく、相互の関係性でどのようなことが出来得るか、を考えていること自体が展示物になるような仕組みがあっても良さそうです。会員の方々のスペースを借りてのシンポジウムを同時に開催しても良いでしょうし、制作参加形としてインスタレーションも可能かと考えられます。制作された作品を展示する場だけではない、画廊とは違う開かれた空間が特徴の会場です。建築設計や各種メーカー、美術工芸に携わる人達がコラボレーションするだけでなくシンクロする様な展覧会にしたいと思ひます。これからも皆様のご協力をお願いしたいと思ひます。

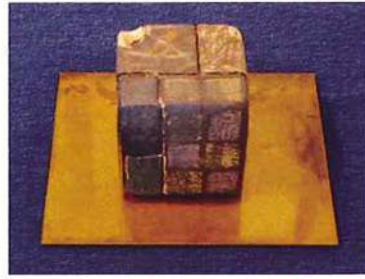
又最後に、今回の展示作業の折、最も適切な場所に作品を最終調整して頂いた加藤貞雄先生に深く感謝申し上げます。

「遊びの色と形」展 展覧会実行委員長
平山 健雄





碓屋雅之、生出健太郎 大成建設(株)
『You can find various types of shapes
in the CUBE』 カラーアクリル板、シナ合板(台座)



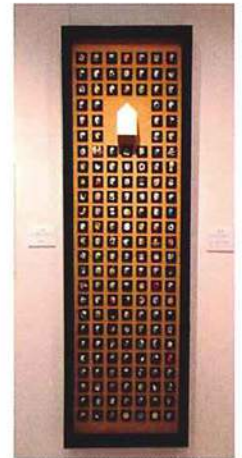
大島佳子(一般参加)
『老楽椿華匣子(おいらく
ちんかこうし)』 陶器



伊藤幹子(一般参加)
『Gold en days』
和紙、金箔、墨、アクリル絵具



大田敏彦
詩集『穂』(spiga) 紙



浦波寛弥 戸田建設(株)
『イエガタ彩集』
木、ステレンボード



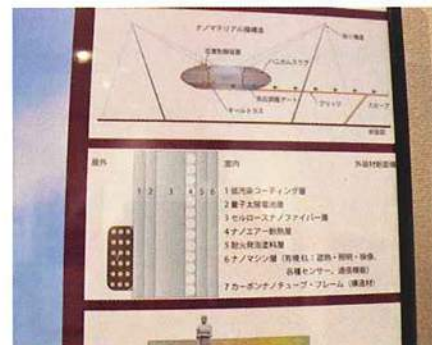
鍵井保秀
『heartfull from
THE BIRTH OF VENUS』
インクジェット/フィルム



井上勝江 『春の喜び 3』 紙(木版画)



岸本まりえ(一般参加)
『ゆるやかな時間』 アクリル



葛西秀樹 (株)大林組
『FUWWAT 2050』 パネル貼、インクジェットプリント



鬼頭亜実 ㈱三菱地所設計
『Audience Become a Bird through a Theatre』
コラージュ絵画 印刷



鈴木聡一郎 鹿島建設㈱
『赤坂Kタワー』 ステンレスパネル、アルミフレーム
『赤坂Kタワー模型』 アクリル本体、アクリルケース



国府田道夫、清水明、松田丈治 ㈱三菱地所設計
『マークイズみなとみらい』 平面パネル



沢口炫三 『天と地と風と』 パネルに土



高部多恵子
『游 13-345,13-678』
紙(版画)



佐藤静子 『D'or du soleil』
ウール、絹、シリコンチューブ(医療用)



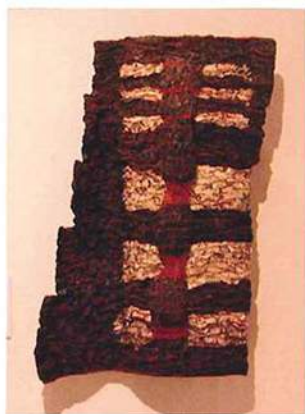
知多秀夫(一般参加)
『彩遊』 合板



椎橋文子(一般参加) 『浮遊』
テンペラ(板、銀箔下地)



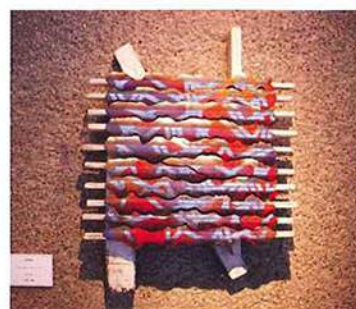
鈴木法明
『シンクタンク(頭脳集団)』
『頭の体操』
チタン、ステンレス



中野恵美子 『道標』 絹、和紙（染織）



中藤泰昭、杉野宏樹 大成建設(株)
『What is Black ?』
アクリル、ステンレス、アルミ（台座）



中村茂幸 『IRONONE』
木、ステンレス



畑生浩子（一般参加）
『硬玉釉窓絵草紋二合盃（ひすいゆうまど
えそうもん にごうさかずき）』 陶器



中川雄一郎、木村吉邦、梅田和弥 大成建設(株)
『Wind Variations 三』 ポリ塩化ビニル、パイプ、鉄板



中村弘子 『無題』 ガラス



野口真理
『まーるまる・赤い』
陶土、粉漆、カシュー、金属箔



白野順子（一般参加）
『A whale of a time』
布（染織）



松井章一郎、石附聡、佐藤琢也、姉齒景介、藤貴彰 (株)
三菱地所設計
『新宿イーストサイドスクエア』 パネル



浜崎ベア 『無題』 東レエクセーヌ®



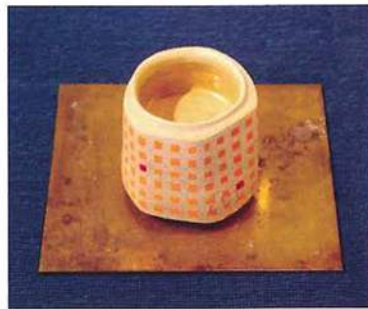
平山健雄
『カノニックへの岐れ路 I , II』
ガラスコラージュ



松田静心（一般参加）
『みえないもののありか』
パネルキャンバス、アクリル、オイル、
ミックスメディア



藤田聡 清水建設(株)
『京橋こども園』 パネル



宮武里絵（一般参加）
『柞灰釉浪漫回紋割貫蕎麦猪口
（いすばいゆうろまんかいもんくりぬ
きそばちょこ）』 陶器



宮越薫（一般参加）
『break time』 キャンバス、油、他



藤原貴子（一般参加）
『墨・色・形』
和紙、墨、アクリルカラー顔料



松本治子（一般参加）
『楽龍中』 タイル



村松勢津子 『ひと ひと ひと』
鉄、木、石



宮下信頭 (株)竹中工務店
『100 colors & 100 windows』
アルミフレーム (ハレパネ)



安河内敦子
『浮遊する影（木彫漆制作ホソカワマサヒコ）』
スタンドグラス、木彫漆



安原竹夫
『ほどける風景シリーズ みんないっしょーこだま』
金属にカービング、アクリル、箔、和紙、布、他



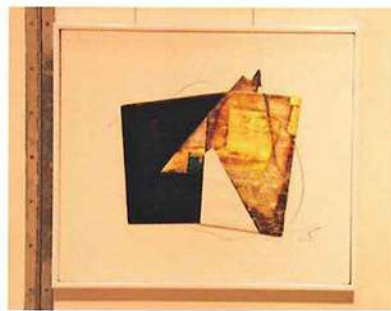
山梨且二（一般参加）
『bad water』
ウレタンホーム、ジェッツ、バケツ、水



渡邊顕彦、松井章一郎、加藤匠、
森下昌司、姉齒景介（株）三菱地所設計
『東洋文庫』 パネル



吉野ヨシ子 『朝霧の詩』 金属



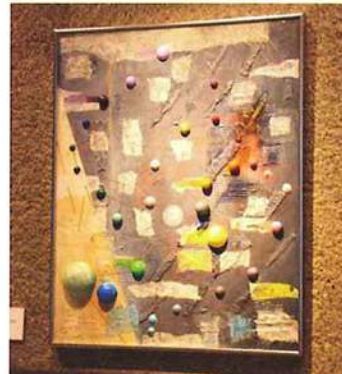
山崎輝子
『革コラージュ（出逢い）』 皮革、貝



渡邊佐和子（一般参加）
『無題』 紙、布、墨、アクリル



渡辺雅夫（一般参加） 『京・花街のトンネル』
木（キハダ、ウェンジ、栃、神代ニレ、他）、漆喰



渡辺雅子
『時の間』
ミクストメディア・キャンバス

「FUWWAT2050 建築構想」

大林組プロジェクトチーム



葛西 秀樹

大林組建築本部

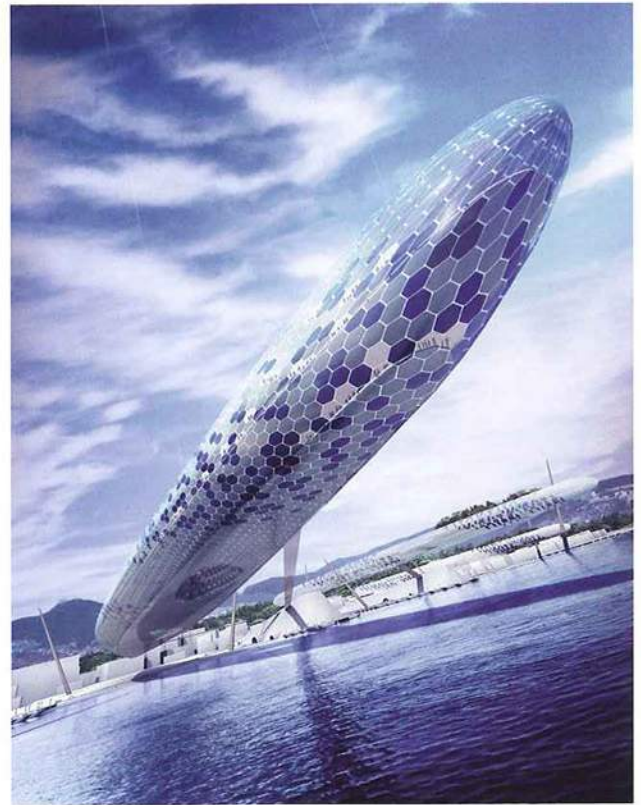
プロポーザル部 課長

日本建築美術工芸協会法人会員

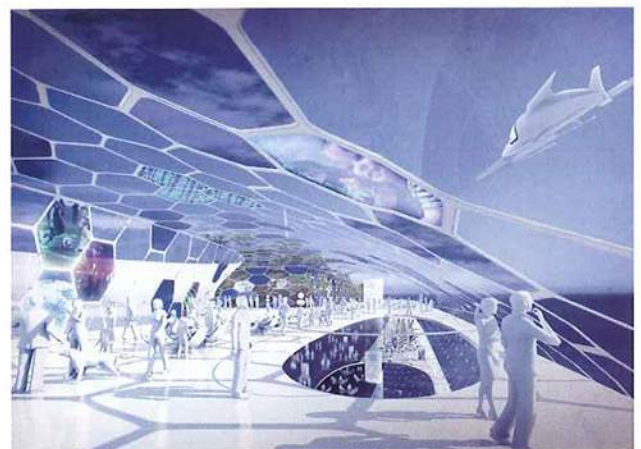
最近、「ナノテクノロジー」という言葉を耳にすることが多くなりました。1ナノメートルというと100万分の1ミリメートルに相当します。この想像を超える小さな世界で生みだされているナノテクノロジーは、コンピュータや携帯電話に使われる半導体や、遺伝子治療に使われるDNAなど、今や私たちの生活を様々な場面で支えています。そしてあらゆる分野で、このテクノロジーが新たなる可能性を拓くものとして期待されています。未来の建築空間もナノテクノロジーによって現在では思いもよらない姿となるでしょう。本構想では、超軽量・高強度のナノ材料を活用した「空中に浮く建築」をベースに、ナノテクノロジーによって実現されるであろう2050年の未来空間のあり方を考え、「遊びの色と形」を表現してみました。



「敷地は地球温暖化による海面上昇で水没が予想される海岸線の街を想定。病院・公共サービス施設棟、業務・商業施設棟、住宅棟の3棟がブリッジで結ばれる。各棟は3層のフロア構成。屋上には庭園やプール、ヘリポートが設置される」



「全長600mのナノ材料でできた葉巻型の膜構造を3本の柱と6本のカーボンナノチューブ製のワイヤーで吊る。本体の背骨に相当する部分にキールトラスを組み込み、ナノセンサーで変形を感知し風による変形や床の震動を制御。地球温暖化による海面上昇、津波への対応、自然への影響等を考慮し、建物は地上30mの空中に設置。外装材はナノテクノロジーを利用した6層の特殊フィルムで構成される」



「床、壁、天井の表面全体にナノマシンがプリントされる。空間全体がセンサーとなり温度や湿度等の環境情報や、人の行動情報等のビッグデータを集積し、施設を統括する人工知能によってコントロールされる。ナノマシンは画面、照明、スピーカー、換気設備、防火断熱、量子ドット太陽発電等の機能を担う」

「Wind Variations 三」



梅田和弥

音環境デザイナー

六甲ミーツアートというアートイベントが毎年六甲山で開催されています。自然の中に作品を展示し、ハイキング感覚でアートと触れ合うイベントで、私は2013年度に音の作品を展示しました。山頂にある自然体感展望台「六甲枝垂れ」は風が強く、展示会場を表す環境の一つです。私は六甲枝垂れの表層に約200本の竹筒の音具を設置し、周辺に吹く風を音に変換することで、六甲の環境を聴覚で体験できる作品を提案しました。竹筒の節間には細い穴が穿たれ、そこに風が吹き込むことで発音します。風の強さや角度などの環境要因によって音が変化し、様々な「音の出来事」が会場内で共存します。



六甲枝垂れ設置風景

この案をより日常に近い公共空間に配置する機会をいただいたのが「遊びの色と形」展でした。今回、自然の竹ではなく他の素材で製作することで、操作出来なかった節間の内部容積にバリエーションを与え、より多様な音を発生させることが出来ました。通り抜けの動線を挟むように幾本も配置することで、双方から音の出遇いを喚起させ、より日常の都市環境に耳を開くことが出来ます。

私は建築と環境と音が互いに影響し合う作品を目指し、それがイベント広場空間で発生する「音の出来事」の共存を受け入れる「器」となるように作品を製作しました。

ジョン・ケージによる一連の作品「Variations I～VIII」は不確定性により発音された様々な音がそれぞれ中心性を持ち、相互浸透的な多様性を持つ作品です。私は、「音の出来事」の共存を受け入れる「器」としての作品を、ケージへのオマージュとしたいと思います。



Wind Variations 三 設置風景



発音箇所

「はざまから生まれるかたち」



木村吉邦

美術家

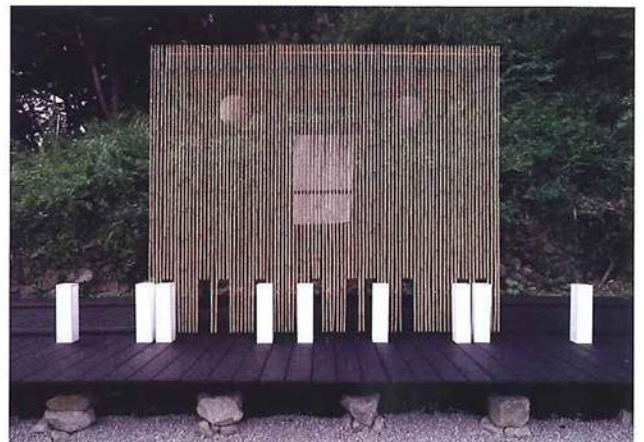
<http://www.kimurayoshikuni.com/>

中之条ピエンナーレは群馬県中之条町で2年に一度行われる大規模アートイベントです。第4回目となる2013年度の展示に「水茶屋加爾達諾 CaffèCardano」という作品で参加しました。

中之条町赤岩地区の高台に旧蹟諏訪神社跡と呼ばれる遺構があります。明治末期の神社合祀により取り壊されたこの史跡を再整備し、可動式の茶屋を設営することで、さまざまな人々が集う場所へと変容させる計画です。赤岩地区には蛮社の獄により弾圧された蘭学者高野長英が逃亡中に潜伏したという伝説があります。その逸話を題材に、地区の人々がどのように長英の逃亡を手助けしたかを想定。動く茶屋そのものが潜伏を援助する人々の連絡に用いられる暗号装置となるようなしくみを考案しました。

茶屋は木製軌条の上を動かすことができます。そして手前には裏側に文字の書かれた行灯。あらかじめ復号点に定めた場所を探しながら茶屋を移動させると、縦格子の穴から行灯の文字に隠された伝言を読み取ることができます。この機構には16世紀イタリアの暗号術であるカルダーノ・グリルを応用しました。長英と中之条の門人たちは蘭学研究の過程でこの暗号術の知識を得たのではないかという設定です。資料や聞き込みに基づいた推測により土地の記憶の中にたゆたう虚と実を浮かび上げさせ、そのはざまから生まれるかたちの実現を目指しました。

今回縁あって aaca25 周年記念展に参加させていただきました。他領域とのせめぎあいのはざまから生まれる新たな表現の可能性を感じ取ることができたと思います。



水茶屋加爾達諾 CaffèCardano

「制作と出会い」



井上勝江

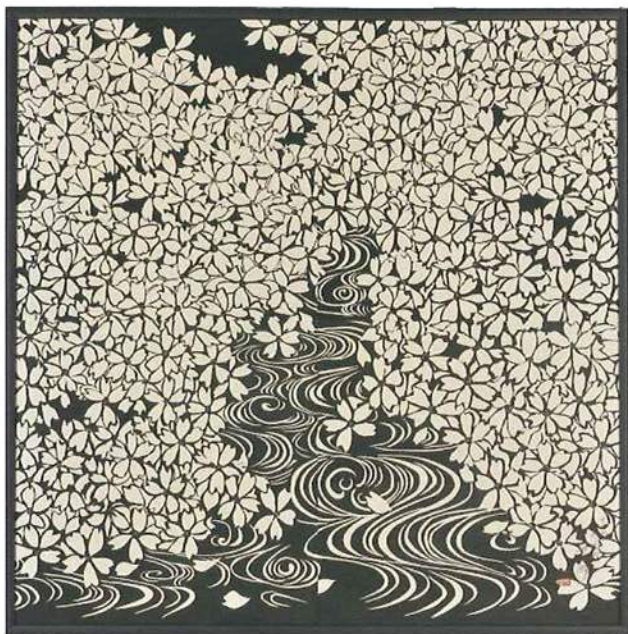
版画家

日本版画院委員同院評議委員

日本美術家連盟会員

日本建築美術工芸協会会員

60年程前に作曲家佐々木章先生に連れられ関東医療少年院に行きました。先生の少年院での活動を拝見しました。私はその時友禅染の職人になるため江戸友禅師のところに弟子入りをしていました。着物や帯などに下絵をつけ色をそめつけていました。そんな時少年院からのご依頼を受け女子生徒に染めを教えることになりました。



ものあわれ

ある時、男子生徒に木版を外から指導にきていられる先生がおられることをお聞きし、木版の指導をお願いしたのです。それは木版染があることを知っていた私は、とり入れたいと思ったからです。木版のおもしろさにだんだん深みに入ったのです。

友禅染か木版か一つに絞らなくてはならない時がきました。30歳頃です。これが木版画への出会いの始まりなのです。

墨摺りの私は墨色の美しさは浮世絵の女人の髪の色にあると思い、浮世絵の摺り師のところへ足を運ぶことになりました。

折れ墨をくだいて水瓶に入れ4カ月位水をとりにかえながら浸けこみます。水は毎日とりかえながらカビや臭いがくさくなるので上水を毎回かかさずとりかえながらブヨブヨになったらすくい上げ乳鉢で5000回ほど

する。大事な仕事です。布袋に入れこす。これがドブ墨の出来上がりです。一番美しい黒だと私は思います。今度は和紙です。いろんな種類がありなかなかみつきりません。思い立ち福井の今立に出かけ漉き手の方から教えをお願いしました。これ又深さにおどろきました。やがて亡くなられた北岡文雄先生に教えていただき、只今楮80パーセント・パルプ20パーセントの配合でお願いしております。只今こよなく愛している和紙です。



つらつら椿

20年程前から少年院の男子生徒に木版を教えています。棟方志功先生の「大慈大非」のお教えにしたがい棟方末華先生の出会いに版画を選んだ私です。これからも無心に制作する生徒たちとゆっくり歩いていくことでしょう。



虹の花

収蔵

ホノルルアカデミーオブアート、千葉県エマオ学園、葛西区心身障害者福祉会館、米沢市立興望館、京王プラザホテル、函館国際ホテル、佐久市立近代美術館、ロシア大使館、ロシア極東連邦大学美術館

展覧会開催

「井上勝江と四季折々の花展」

2014年3月15日(土)～5月15日(木)

知足美術館(新潟県)

URL: <http://chisoku.jp/>

「素材・現代の様相」一次への制作一

2013年10月28日～11月2日



大島由美子

美術家

春陽会会員

日本美術家連盟会員

日本建築美術工芸協会会員

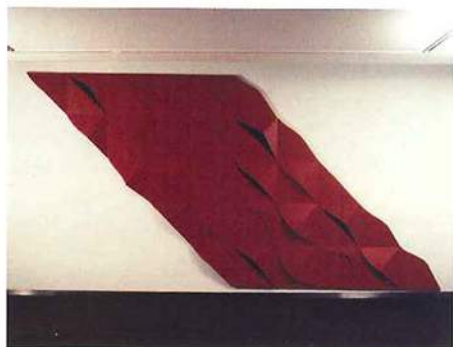
a a c a 25周年記念作品展開催に合わせて「素材・現代の様相」が「画廊たん」にて行われ、石、金属、木彫、木による立体とレリーフに4人の作家が参加した。4人の中には、大成浩氏もゲストとして加わって下さった。通常、初日オープニングは作家がほとんどの顔ぶれとなるが、さすがに今回は、a a c aのお客様が大勢いらして下さり、改めて、顔ぶれの多彩さに目を見張った。様々な分野で活躍されている方々とお話が出来たのも、a a c aの主催のグループ展ならではのと思う。以前、a a c aの交流会に出席してみたが、見知らぬ方々に、口下手な私は会話するきっかけが来ず、淋しく会場を抜け出してしまった事があった。そのような過去もある上、個展でも経験の出来ない、良い機会を与えて下さったと感謝している。今回のグループ展では、木を使ったレリーフ、立体を出品した。この20年程は、主に木を組み立てた作品を制作している。思い返してみると、暗い美術大学受験期を越え、美校に入ってから、同様のモチーフである筈の石膏デッサンや人体を見る目に変化した。体の内から来る動きを意識し始め、とたんに制作が面白くなった。進めると人体は驚く程の精密機械であり、その素晴らしい構造に感嘆した。「空間への意識、在るという事、構造」に心躍り、手さぐり状態で描いていくにつれ、形状が抽象へと移って行った。その頃、友人の勧めもあって、上智大学に現代美術の授業に通った。上智では、神父であり教授、画家であるジョセフ・ラブ先生が、金髪、碧眼の美しい姿で教鞭をとっていた。このような授業は美大ではなかった。ラブ先生ご自身が体験してきているアメリカの抽象表現主義の話と、多くのスライドは生き生きと細胞の隅々に息吹を与えてくれた。もう一度、今の時点で講義をお聞きしたいが、

残念ながら、その後、天国へ旅立たれた。抽象平面を描きながら、面や線、リズムが空間にもっと呼応したいと木材を使い始めた。住んでいる東京の住宅地では、周囲に迷惑はかけられないので、電動ノコやサンダーはなるべく使わず、カッターややすりでシコシコと手で作業している。木は、カッターで出来る範囲の厚さで、もっと厚



「direzione」1800 mm×500 mm

さが必要なのはポンドで張り合わせる。手を使うのは時間がかかる反面、考えたり思い巡らしたりする時間になる。体力的にはきついが、充実感はある。木を組み立てても素材感が出さない。別の顔にしたいと思う。「この形に対して、何の色を欲しているのだろうか?」と探っていく。色は限りなく魅力的だが、平面の時より今の方が何倍も悩んでしまう。美しい色は、美しい音のように五感を蕩けさせてしまう程に魅惑的で深過ぎて難しい。最近、もっと納得のいく色を探って行きたいと思い始めた。制作に一応の区切りをつけ、次への制作という時点が最も希望に満ちた幸せな時です。真っ白でゼロのスタート。不安も一杯ながらワクワク感が満ちて懲りもしない。その中で自分にとっての拠はドロイングだ。今の時代は、もう古いのか(・)も(・)と思うのですが、自分を落ち着かせる為に、直ぐには役立たないけれど大事な準備体操です。単に手を動かしているだけのドロイングですが、様々な可能性を秘めているように思うのです。ほとんどの線は見慣れた線になってしまうのだけれど、それでも何か新しい自分を見つけて行きたく、そのゾクゾク感を味わいたく、そして、次の制作に挑戦していきたいと思う。



「WAVE」

約 2300 mm×4500 mm

木材、アクリル

世田谷キャロットタワー



「Composizione」 900 mm×600 mm

第8回「aaca 千葉・茨城地区建物視察会 参加記」



遊佐謙太郎

三菱地所株式会社
都市計画事業室 副室長
日本建築美術工芸協会法人会員

aaca から頂いた建物視察会の企画案を目にした瞬間から、「このところ訪れてみたいと願っていた建築やまちを総ナメにした、なんと心が通じ合う企画だろう。これは何があっても参加しなくては我が人生に悔いが残る」という多少大げさな決意が第一印象でした。出発当日の11月15日、関東～千葉方面は「朝から一日中雨」という天気予報でした。そんな中、東京駅近くを発してアクアラインを越え千葉県に入ると、紅葉も見え始めた小さなアップダウンのある小山達をいくつか越えて奥深く進む中、所々から農家が落ち葉を焼く煙が仄かに立ち上がる鄙びた晩秋の山村風景が眼前に展開し、学生の頃に丁定規と三角定規だけでは到底書けない平・立・断の製図課題で大格闘した「国のまほろばとしての大多喜の地域環境の中に立つ建物をイメージ」された今井兼次の大多喜村役場への期待が一段と高まりました。



到着すると1959年竣工にしてはRC打ち放しの建物状態も良く、大多喜城や敷地の高低差等の立地関係、床や照明器具、大会議室の木梁の寺社を思わせる装飾、ドアの取手の細やかな想いの込められたディテールへの配慮、また遠くから遠望されるヨーロッパの小都市を思わせる塔など今井兼次が込めた情熱・靈感が今でも感じられ、町民からも愛されている名建築であることへの想いがつのりました。この建物が手狭になったため2012年に千葉学氏の設計により増築された建物は、シンプルなボックス形状の中に、45度に振られた梁や空調設備などが収まった解放感のある天井の高い一体的な空間が印象的で、周囲からの眺めも良い明るくて使いやすそうな建築でした。

続いて、バスで市原湖畔美術館へ。高滝湖へ開かれた景観が印象に残る、現代美術館でした。芸能人並みに忙しいスケジュールの中を、次は千葉市緑区にあるAACA賞などを受賞した日本初の写実絵画専門美術館のホキ美術館へ。敷地はJR外房線の土気駅にも近い新興戸建住宅街の中というそのロケーションにまず

は驚きました。法令的制限を逆にとり、ゆっくりと歩行する巡回路が緩やかな円弧を描き、地下にも広がる空間を、眩惑的な写真としか思えない写実絵画を見ているうちに、非日常的な意識を覚えました。やがて地上に出てみると現代の構造設計・施工技術の粋を尽くした美しい巨大なキャンチレバー構造が大きく印象に残るのです。さて、正午が近い中、バスは千葉中央部の平坦な地形の中を成田方へひた走り、うなぎ料理で有名な川豊別館で美味しいうなぎを舌鼓を打たせて頂きました。一日中雨という天気予報を裏切る幸運な薄曇りの天気が続く中、次は三里塚にある吉村順三設計による唯一の小ぶりな教会を訪問。限られた予算の中で、簡素で味わい深い祈りの空間を創造した吉村順三の力量に感銘を覚えました。冬の夕暮れも近くなる中、佐原の街並みを視察。東日本大震災により歴史的建造物に被害のあった地域ですが、復興も順調に進んでいる様子で、かつての街並みが蘇りつつありました。



次の16日は朝から快晴。まずは水戸藩第九代藩主徳川斉昭によって造園された梅で有名な偕楽園へ。千波湖に臨む素晴らしいロケーションに梅を中心とした数多くの植物が植えられ、「民と偕（とも）に楽しむ」という名君斉昭の思いに心を馳せるのでした。そのあとバスは一気に茨城北部の五浦へ向かい、内藤廣氏の設計で建築学会賞などを受賞し、内部空間のPC梁の構造が印象に残る天心記念五浦美術館や、震災の津波により流失後、最近再建された六角堂を見学。強い風と海の香りの中で、天心が明日の日本を想った瞑想的ロケーションに魅惑されました。最後の視察地である茨城県の真壁町は稲田石で有名な加波山西側に位置しアクセスが難しい場所ですが、よくぞ企画して頂いたものです。夕闇が迫る中、真壁伝承館や重伝建地区に指定された街並みを堪能。



全体として様々な想いの込められた建築や街並み、美しい日本の風土・風景、そしてaaca会員皆様との交流を2日間楽しめた素敵な視察会でした。



「歌舞伎を語る」



人間国宝 六代目

澤村田之助

歌舞伎役者

平成25年11月7日 京橋創生館AGCスタジオにおきまして、第182回フォーラムが行われました。「歌舞伎よもやま話」と題し人間国宝澤村田之助氏にお話いただきました。立石フォーラム委員長より田之助氏の紹介があり、人間国宝はじめ紫綬褒章、旭日章受章、松尾芸術賞、今年、黄綬褒章も受賞されておられます。

端正な羽織はかま姿の田之助氏の話が始まり「どうして歌舞伎役者になったか」あまりしられていない話をしたいと始まりました。歌舞伎の名家に生まれ「伽羅千代萩」鶴千代で初舞台を澤村由次郎の名で演じました。8歳、昭和16年でした。昭和39年澤村田之助6代目襲名しました。幼いころから相撲に夢中になり5歳で東西の十両、幕下の名前を覚えてとか。昭和14年、69連勝の双葉山が安藝海に敗れた世紀の対戦を6代目菊五郎さんに連れられ観たことは良い思い出です。芸事は6歳6月6日から踊り、長唄、義太夫、と日中戦争に逆らうようにお稽古しました。女形の勉強とはいえ振袖をきてバスに乗ったことを覚えていません。当時の役者方は15代羽左衛門、7代幸四郎、初代吉右衛門、12代仁左衛門、友右衛門さんなどで賑わっていました。太平洋戦争が勃発、歌舞伎座は昭和18年から休演、戦後、菊五郎劇団に戻りました。

講師 プロフィール

役の解釈が深く確かで、コクのある芸。六代目菊五郎と梅幸の薫陶を受けた正統派の女方で、近ごろは『盲長屋梅加賀篇(めくらながやうめがかがとひ)』のお兼のような、江戸の闇の匂いがする汚れ役も演じている。時代物の片はずしの役もいい。『雪暮夜入谷畦道』(ゆきのゆうべいりやのあぜみち)の按摩文賀(あんまじょうか)のような老け役を演じる機会も増えた。永年積み重ねた実力と芸域の広さで、引っ張りだこの存在。国立劇場歌舞伎研修の主任講師を勤めている。

【芸歴】

昭和7年8月4日生まれ。五代目澤村田之助(初代曙山【しょざん】)の長男。昭和16年3月 歌舞伎座『先代萩』の鶴千代ほかで 四代目澤村由次郎を名のり初舞台。

昭和39年4月 歌舞伎座『矢口渡』のお舟ほかで六代目澤村田之助を襲名屋号は紀伊国屋、定紋は執菊(かんぎく)、替紋は波に千鳥。舞踏の名取名は 藤間 勘之(ふじま かんじ)。本名は山中宗雄(やまなか むねお)。人間国宝。

【受賞】

昭和40年度第十一回テアトロン賞。以後、国立劇場優秀賞、松竹社長賞、名古屋演劇ペンクラブ 年間賞など多数。平成8年度芸術選奨文部大臣賞。9年紫綬褒章。12年松尾芸能賞特別賞。12年度日本芸術院賞。14年重要無形文化財保持者(人間国宝)。25年旭日小綬章。

「十六夜清心」で尾上梅幸さんと共演、恋塚求女を演じ、千秋楽の日、「澤村由次郎表彰する」と貼り紙されたこと、滅多にないことでしたので役者になってよかったと幸せでした。

歌舞伎は面白い世界だけれど、稽古が大変、セリフを覚えてどういうふうに相手方に伝えるか、気を抜くとセリフは忘れる。間が大事なことを話されました。膝を悪くされ正座が無理になり休演中ですが、国立劇場歌舞伎俳優研修生指導の重責を担っておられます。

私自身旧歌舞伎座で何度も拝見させていただいたことが懐かしい思い出です。お声がよく通ります。数あるお芝居の女形を演じられた中で「め組の喧嘩」のお仲が一番好きだとお聞きしました。

最近「澤村田之助昔がたり 回想昭和の歌舞伎」を雄山閣より出版されました。御高覧のほど。

講演が終わり隣のパーティ会場に移り大勢の方々に参加され親睦を深めるいい機会となり楽しい夜を過ごしました。

フォーラム委員 村松勢津子



曾我の対面(寿傾城の大磯)

第16回 瓦屋根設計コンクール 葦 iraka 賞

第3回 葦賞学生アイデアコンペティション

第1回を1981年(昭和56年)に開催して以来、32年の歴史を持つ葦賞。日本の景観を美しく彩ってきた粘土瓦の新たな魅力を求めて数年に一度行い、今回で16回目を迎えます。前回の第15回開催から次世代の建築を担う学生の方々を対象に学生部門を新設いたしました。昨年の単独開催を経て今回は3回目の開催となります。

粘土瓦という素晴らしい素材を使い、新しい「瓦」のある風景を発見してくれることを期待しています。



葦賞

題字書 / 岡本光平

■募集期間 平成26年2月1日～4月30日 (4月30日消印有効)

■募集要項のご請求・応募作品提出先

葦賞事務局 〒444-1323 愛知県高浜市田戸町一丁目1番地1
全国陶器瓦工業組合連合会高浜事務所内
[TEL] 0566-52-1200 [FAX] 0566-52-1203 [E-mail] info@kawara.gr.jp
●募集要項・応募用紙は下記ホームページからもダウンロードできます。
葦賞事務局(愛知県陶器瓦工業組合) <http://www.kawara.gr.jp/>
全国陶器瓦工業組合連合会 <http://www.zentouren.or.jp/>

■審査委員

委員長 古谷誠章(建築家 日本建築学会副会長 ナスカ一級建築士事務所代表 早稲田大学教授)
委員 堀越英嗣(建築家 堀越英嗣ARCHITECTS代表 芝浦工業大学教授)
委員 村上晶子(建築家 村上晶子アトリエ主宰 明星大学教授) 他6名

設計部門募集要項

■課題
国内産粘土瓦を屋根又はその他の部位に使用した建築設計や環境デザインの優れた実施例で、応募時点において完成後1年以上(7年以内まで)経過している建築物及び構造物で、「住宅」「一般」の部門別に審査します。
●住宅部門(一戸建、併用住宅、集合住宅等)
●一般部門(屋根以外の新分野使用・環境デザイン等を含む)
建物の様式、大小、瓦の産地、形状等は制約いたしません。すでに発表されている作品でも結構ですが、過去の葦賞に応募された作品は応募出来ません。

■募集対象
設計事務所及び設計者(一般部門は作品を実質的にデザインした者を含む。)

■提出物 応募カード・設計図面・建物及び構造物のカラー写真
応募カードはご請求いただくか、HPよりダウンロードしてください。
設計図面は、平面図、立面図、屋根伏図、配置図、瓦施工ディテール等をA3横サイズ5枚以内にまとめてご提出下さい。

■賞

●金賞(2点)	賞状および・副賞50万円
●銀賞(1点)	賞状および・副賞20万円
●銅賞(1点)	賞状および・副賞10万円
●景観賞(1点)	賞状および・副賞10万円
●佳作(10点程度)	賞状および・副賞3万円

学生部門募集要項

■課題 『瓦素材』を用いた新しい公共空間の提案
— 心を紡ぐ『瓦』のある風景の継承 —
「瓦」が表現する新しい日本の原風景が提案されることを期待しています。空間の大きさや用途などはすべて自由です。

■応募資格
国内外の大学院、大学、高等専門学校又は各種専門学校で建築を学んでいる者(学生)。グループによる応募も可。

■提出物 応募カード・応募作品
応募カードはご請求いただくか、HPよりダウンロードしてください。
応募作品は、A1サイズ用紙1枚に、コンセプト、PRポイント等を記載し、平面図、配置図、立面図、パース、模型写真、その他詳細図など設計意図を表現するのに必要と思われるものを各自選択して描いてください。縦使い、横使いを含めてレイアウトは自由。
表現方法は、鉛筆、インキング、着色、CGや写真などいずれも自由。

■賞


●金賞(1点)	賞状および・副賞10万円
●銀賞(1点)	賞状および・副賞5万円
●銅賞(1点)	賞状および・副賞3万円
●佳作(5点程度)	賞状および・副賞1万円

主催 / 全国陶器瓦工業組合連合会 一般社団法人 全日本瓦工事業連盟

後援 / 経済産業省 国土交通省 一般社団法人日本建築学会 公益社団法人日本建築家協会 公益社団法人日本建築士会連合会
一般社団法人日本建築士事務所協会連合会 一般社団法人日本建築美術工芸協会 全国いぶし瓦組合連合会 株式会社日本屋根経済新聞社

100年後の、日本の森林を守るために。

今、日本の森林資源を有効に使うことが求められています。
そのために、木材を永く使える技術を提供し、可能性を拡げることが必要です。
私たち越井木材工業は、ウッドエンジニアリングによって付加価値を与えた木材を
都市部で活用することで、付加価値を山間部に還元し、森林整備・林業再生を
目指しています。



森と街をつなぐ
サステイナブルな社会を
目指しています。



1,2 日本圧着端子製造株式会社（大阪市） 設計：Atelier KISHISHITA + Man'go design
天井ルーバー：準不燃スーパーパネル
外装ルーバー：コシイ・スーパーサーモ（一部不燃、準不燃処理）



越井木材工業株式会社

〒559-0026 大阪府大阪市住之江区平林北 1-2-158
TEL：06-6685-2061（代） FAX：06-6685-8778
E-mail：info@koshi woods.com

越井木材

検索

25年度臨時総会

開催日：平成25年12月4日（水）午後3時～3時30分

場 所：建築会館大ホール（東京都港区芝5-26-20）

平成25年度臨時総会は 11月1日付にて一般社団法人に移行した事に伴い、旧社団法人の平成25年度（4月1日より10月31日迄）の事業報告と決算について会員の決議を得る為、会長の招集により開催した。

臨時総会は総会員数336名（個人275名・法人61名）の内、出席者181名（出席52名、議決権行使書・委任状提出129名）を得て定款に定められた定足数169名を超え、成立した。

議長に岡本 賢会長を選任し、議案の審議が行われた。

第一号議案・平成25年度事業報告に関する件を岩井専務理事、第二号議案・平成25年度収支計算書等に関する件は石田理事・事務局長よりの議案説明があり、さらに中島三枝子監事より25年度の会計及び業務について監査報告があり、議長の採決により第一号・第二号議案及び監査報告は満場一致にて承認された。

上記議案の決議により、文化庁・内閣府への移行完了届出を行い、移行手続きが完了致します。

また、事務局長より一般社団法人日本建築美術工芸協会 平成25年度（25年11月より26年3月まで）の事業計画並びに予算案が報告があり承認された。

新入会員・会員の移動（2013年11月～2014年2月 敬称略）

新入会員

個人会員

白野順子	〒186-0002	国分寺市東1-15-18	TEL 090-2492-9068
岩佐敏子	〒216-0033	川崎市宮前区宮崎台4-1-50	TEL 044-855-5305
関戸博高	〒103-0027	中央区日本橋3-4-10 スターツ八重洲中央ビル	TEL 03-6860-3340 スターツコーポレーション(株)
栗生 明	〒112-0002	文京区湯島1-2-12	TEL 03-3256-8891 (株)栗生総合計画事務所

会員の移動

北島祥浩	住所変更	〒522-0087	彦根市芹橋1-5-30-11
清水建設株式会社	法人担当者変更	建築事業本部	設計プロポーザル統括 企画管理部長 深沢公文
株式会社 山下設計	法人担当者変更	執行役員	建築設計部門長 和田 直

新規会員紹介 のお願い

当協会は建築と美術・工芸に関わる総合空間芸術を目指す人々が集まり、優れた都市景観と文化的な生活環境の創造を目指して活動を続けています。景観シンポジウムを始め様々な最先端情報を発信して、公益事業活動の実績を重ねて、当協会の存在感を社会の中で高めていきたいと願っております。この様な趣旨にご賛同される方々を是非ご紹介頂き、ご入会のうえ一緒に活動して社会貢献への一助としてご尽力戴きたくよう宜しくお願い申し上げます。

ご紹介いただける方は 事務局まで入会申込み書をご請求ください。（ホームページからも入手できます。）

詳しくは、ホームページをご覧ください。

東日本大震災 「芸術文化復興預金」 募金のお願い

25年度寄付金（2月末現在）
90,152円

ゆうちょ銀行 港芝五 当座預金
口座名： AACAA芸術環境復興預金口
店番： 0-9 口座番号： 0338383

会員投稿記事 募集中
会員の皆様の
作品紹介、活動報告、
展覧会、個展等のご案内
企業の広告、出品展等のご案内を
会報に掲載いたします。詳しくは
広報委員会にご相談ください。

会報について
会報へのご意見 ご希望を
お寄せください。（広報委員会）

発行 一般社団法人日本建築美術工芸協会
発行人 会長 岡本 賢
〒108-0014
東京都港区芝5-26-20 建築会館6階
Tel 03-3457-7998
Fax 03-3457-1598
Url <http://www.aacajp.com>
E-mail info@aacajp.com

編集 総務委員会 会報編集部会
野口 真理(部会長)
飯田 郷介 石田 真人 神谷 ふじ子 徳重千里
竹生田 正 中村 弘子 山崎 輝子
事務局
印刷協力 美和野印刷株式会社

